



築理会 会報

2025 Autumn vol.76

東京理科大学工学部建築学科校友会

CONTENTS

OB・OG座談会

2P **理科大建築学科の特徴や今後の期待は？**

4P **卒業50周年祝賀会・式典に参加して**

金町のいま

5P **「超りぼん」をテーマにりぼん委員会始動
電機大と合同で寄居町の未来を構想**

2025年度築理会総会報告

6P **築理会×野田建築会合同で講演会・懇親会を開催**

INFORMATION

- ・第20回ホームカミングデー 10月19日(日) 開催
- ・学生と卒業生交流イベント「先輩と語る2025」11月22日(土) 開催
- ・2026年築理会・野田建築会合同新年会 2026年1月15日(木) 開催

築理会の最新情報を、HP、メルマガ、Facebook等で配信しています。
築理会活動へのご意見・ご要望、会員の情報がありましたらお寄せください。

chikurikai@gmail.com

「光響」：清水 涼加 (建築学科2年 写真部)

理科大建築学科の特徴や今後の期待は？

ALUMNI FORUM



安達 功氏
(築理会副会長)

川辺 直哉氏
(建築学科/教授)

鳥海 沙織氏
(建築学科/嘱託補手)

2025年9月に、夜間主社会人コースの川辺直哉教授と、鳥海沙織補手に、理科大や築理会の「特徴や今後期待すること」を聞いた。写真の左から順に安達功さん、川辺直哉さん、鳥海沙織さん

理科大を出て他大や社会経験を経た後、再び理科大と関わることになったOB・OGは、今の理科大建築学科（現役生）や築理会（OB・OG）に何を感じ、今後何を期待するのか。2025年に教授になった川辺直哉氏と、24年に補手になった鳥海沙織氏にインタビューした。

— 最初に、経歴と理科大での仕事を教えてください。

川辺氏：1994年に理科大を卒業し、96年に東京芸術大学大学院を修了。石田敏明建築設計事務所に勤めた後、2002年に川辺直哉建築設計事務所を設立しました。同時期から当時の理科大2部で非常勤講師を始め、1部の3年生も設計製図を十数年ほど教えました。25年から理科大の夜間主社会人コースで教授になりました。

研究室には修士1年生2人と学部4年生6人が所属しています。全員社会人の学生です。看護師など別業種の学生やリモートで仕事をしながら大学に通う学生がいます。バリエーションに富んでいて楽しいですよ。みんなモチベーションが高いです。

鳥海氏：私は建築分野以外の大学を出て就職した後、理科大2部に入って建築の勉強を始めました。18年に卒業してそのまま修士に進み、19年にスペインでインターンを経験。21年に大学院を修了して、中山英之建築設計事務所に勤めました。同事務所を辞める頃に坂牛卓先生から声がかかり、24年から理科大の嘱託補手として勤めています。インターンシップの窓口や、1部の学生が教室を使ったりレーザーカッターなどの備品を使ったりするサポートをしています。

— 仕事の両立が難しそうですね。

川辺氏：タイムスケジュールはカオスです（笑）。大学

新任紹介

青木 公隆 准教授

2006 理科大 卒業
08 東京大学大学院 修了/修士
22 東京大学大学院 修了/博士



李 時桓 准教授

2011 東京大学大学院 修了/博士
11 理科大 嘱託助教
22 名古屋大学大学院 准教授



胡 紅李 嘱託助教

2024 東京大学大学院 修了/博士
24 東京大学 特別研究員



李 雨彤 夜間主社会人コース 嘱託助教

2023 広島大学大学院 修了/博士
24 理科大 PD研究員



卒業 50 周年祝賀会・式典



卒業50周年祝賀会・式典に参加して

2024年10月27日に、大学と理窓会が共催した「卒業50周年祝賀会・式典」に参加しました。

式典では浜本隆之・東京理科大学理事長が、「東京理科大学の現状」と題した講演を行いました。理科大の沿革から始まり、数字で見る理科大、大学発ベンチャー企業数、2026年に創域情報学部科学コミュニケーション学科開設予定や、TUS VISION 150宣言（「日本の発展を支えてきた理科大」から「世界の未来を拓くTUS」へ）等々。どれもこれも理科大の勢いを大いに感じる内容でした。

皆さんにもその一部を紹介させていただきます。下の表は、講演会のパワーポイント画面をカメラで撮影し、数字を拾って後日作表したものです。

参加者の中には遠方から2泊3日で参加した人もいて、有意義なひと時を過ごすことができました。ただ、建築学科の出身者で懇親会に参加したのはわずか3人でした。事前に同級生を誘わなかったことが悔やまれます。これから順番が回ってくる皆さんは、是非とも参加を誘い合わせることをお勧めします。

（飯山道久、1974年卒）

理科大への志願者数や入学者数などの1973年と2023年の比較

項目	1973年	2023年
志願者数 (学部一般のみ、延べ数)	41,368	50,698
入学者数 (学部のみ)	3,323	4,245
学生数 (学部)	13,618	16,335
学生数 (大学院・専攻科)	300	3,433
土地面積 (約 m ²)	539,800	955,437
建物面積 (約 m ²)	76,900	341,773

大学発ベンチャー企業数は3年連続で7位*

	2023年	企業数	2022年	2021年
1	東京大学	420	東京大学	東京大学
2	慶応義塾大学	291	京都大学	京都大学
3	京都大学	273	慶応義塾大学	大阪大学
4	大阪大学	252	筑波大学	筑波大学
5	筑波大学	236	大阪大学	慶応義塾大学
6	東北大学	199	東北大学	東北大学
7	東京理科大学	191	東京理科大学	東京理科大学
8	早稲田大学	145	名古屋大学	
9	名古屋大学	143	早稲田大学	名古屋大学
10	立命館大学	135		

※2024年は東北大学(222)を抜いて6位(226)にランクアップしています。

「超りぼん」をテーマに編集開始

(高 佳音 研究室・修士1年生 丸尾隆仁)

こんにちは、りぼん編集長の丸尾です！突然ですが、皆さん『りぼん』ってご存じですか？

『りぼん』は、東京理科大学工学部建築学科の卒業設計や設計課題をまとめた作品集です。今回でなんと記念すべき20周年！歴史ある本なんです。

今回のテーマは「超りぼん」。20周年を盛り上げるにふさわしい仕上がりを目指して、「誰が見てもわかりやすく楽しめる」ことをコンセプトに掲げました。

制作には修士1年生の9人が中心となり、半年以上かけて構成・編集・デザインを練り上げます。就職活動や学業の合間を縫って、文字通り“超”がんばって取り組んでいます（笑）。

見どころは、なんとといってもこれまでの垣根を超えた卒業設計の数々です。工学部や修士課程の作品はもちろん、社会人や理工学部の選抜作品も収録します。さらに、特別企画として「超紹介」「超交流」「超対話」「超エスキス」と盛りだくさんの企画を準備中です。どんな内容かは読んでからのお楽しみです。

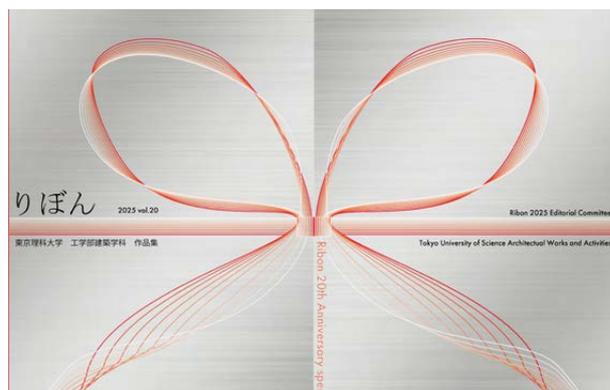
ちなみに『りぼん』という名前には、「理科大建築

学科の本＝理本」という意味と「OB・OG、現役学生をつなぐリボン」という想いが込められています。OB・OGの皆さまには思い出となつかしさを、現役生には今後の制作のヒントをお届けできるはずです。

販売は、東京理科大学の神楽坂・葛飾・野田キャンパス内にある生協で予定しています。

20周年の節目にふさわしい『超りぼん』をぜひ手に取ってお楽しみください！

「超りぼん」をテーマにした、記念すべき20周年目の表紙デザイン



電機大と合同で寄居町の未来を構想

(川辺直哉 研究室・4年生 中山琴未)

「川辺研究室」は2025年4月に発足した建築計画・意匠系の研究室です。修士1年生2人と学部4年生6人の計8人が所属しています。全員が社会人学生です。

研究室の主な活動は2つ。建築家や建築物のリサーチを通して、その設計プロセスなどを論理的に考察・可視化し、建築設計に応用・実践するための研究。そして、地域の調査と課題分析に基づく設計演習です。

最近の活動は、埼玉県寄居町を現地調査し、地域課題を分析して町の未来構想を提案する「まちデザインプロジェクト」です。これは東京電機大学との合同演習課題で、期間は約1.5カ月。川辺研究室からは1チーム4人が参加しました。先生方や、寄居町で活動する

建築家からアドバイスを受けつつ、研究室の垣根を超えて学生同士で情報共有しながら取り組みました。

課題の中間発表を終える頃には、当初案からプログラムや形態だけでなく、テーマ自体も大きく変わりました。最終的には寄居町の住宅地が抱える防災的課題を解決し、魅力的なまちに更新していくことを目指した提案へと発展しました。当初案にとらわれず、“この地域で取り組むべきこと”の解像度を高めた提案にまとめられたことは大きな成果になりました。

今後は卒業設計を軸に、9月のゼミ旅行や10月に予定されている地域の方々に向けた「まちデザインプロジェクト」の成果発表会などが控えています。



埼玉県寄居町を対象にした、東京理科大学川辺研究室と東京電機大学の合同演習課題の様子



2025年度 築理会総会・懇親会報告

築理会 × 野田建築会 合同で講演会・懇親会を開催

5月10日土曜日、東京理科大学神楽坂校舎1号館17階講堂（Zoom併用）で2025年度の築理会総会が行われた。今年度は築理会と野田建築会が合同で講演会と懇親会を実施。大学との「共同宣言」に加え、両会の交流も深まりつつある。

築理会は、今後も増加していく会員数に対して、安定した運営や経営の形について議論していく必要がある。総会では再任された石橋敦之の会長から2025年度の事業計画の柱として、①事務作業の外部委託と効率的な会費納入システムの検討、②在校生に対する「学生会員制度」の周知による卒業後のシームレスな参加実現、③再構築・クラウド化した会員データベースの今後の利活用活性化などの方針が示され、承認された。

会費納入システムについては参加した会員から「自宅パソコンから振り込める仕組みを構築できないか」「郵便振り込みに加えコンビニエンスストアでの振り込みもできるようにしてほしい」など、使い勝手のよい会費納入システム実現に対する意見が出た。

前年度決算は予算に対して55万円の黒字に

前年度2024年度の決算は、終身会員会費の増加などにより、築理会会費が23年度の89万1500円から146万7000円に増加、結果的に収入総計は249万2348円と2024年予算比59万2348円増となった。支出総計は194

2025年度の役員

会長	石橋 敦之（再任）
副会長	近藤 剛啓（留任）
	安達 功（留任）
	天神 良久（留任）
	増村 清人（留任）
事務局長	河村 享一（留任）
監査役	三輪 富成（留任）



2025年度の築理会会長は、24年度に引き続き石橋敦之氏が再任。副会長と事務局長、監査役はそれぞれ24年度から留任することが決まった

万5513円となり、通年の収支は54万6835円の黒字となった。

2025年度の予算は、前年度の会費等の収入を維持する前提で組み立て、収入総計219万5000円、支出総計219万5000円の予算案が承認された。支出としては運用を開始した会員データベースの管理運用上の機能向上費用を15万円計上、築理会賞費やリボン支援などは

2025年度の活動計画

1	企画総務委員会は、築理会の課題解決を中長期の具体的な活動として計画する。
2	情報広報委員会は、会報誌（春・秋）・ホームページ・SNSなどを利用し、会員の輪を広げていく。休止中のメルマガの再開を目指すなど、会員の活動発表の場を提供する。
3	活性化委員会は、各種イベント（ホームカミングデー、新年会など）に加え、地域会や企業内の会員活動を顕在化して支援していく。また会員のグループ活動なども広めていく。
4	学科連携委員会は、大学との「共同宣言」をもとに、学生会員制度の周知や軌道に乗っているリボン支援やOB・OG交流会「先輩と語る」などに加えて、新しい企画や社会人コースとの連携なども模索する。
5	JIA 新宿地域会と学生コンベの継続開催を目指す。

例年通りの金額に据え置く予算となった。今後への課題として石橋会長から「築理会の活性化や事務作業の外注、学生支援などをこれまで以上に実施していくために、毎年どのくらいの収入が必要なのか、またそれを実現するためにはどんな手を打つべきか、継続的に具体的な議論をしていく必要がある」との問題提起があった。

「デジタル×建築」の未来像を展望

総会に続く記念講演会は築理会と野田建築会の合同企画として開催された。建築家でありプログラマでもある高木秀太さん（2009年卒）の記念講演『「デジタル×建築×人」の現在地と未来』を受けて、山岸隆さん（2014年卒、築理会）、大野芳俊さん（野田建築会）を加えたクロストークを展開、進行は築理会の中東壮史さん（2013年卒）が担当した。

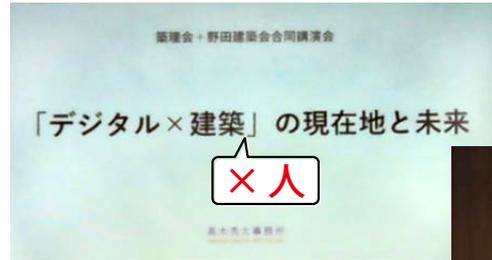
高木秀太事務所における①幾何処理、②シミュレーション、③AI活用の実践例をひもといてもらいつつ、建築設計とデジタルを巡るこの20年の変遷やとんでもない発展を遂げつつあるAIの可能性、デジタル×建築の新たな可能性について、実務の最前線に関わる3人が議論を交わした。

「デジタルは料理をつくる包丁のような存在。実務上で何に困っているかという問題意識こそが宝物であり、まずデジタルありきで始めないことが大切」（高木氏）、「プログラムを勉強して感じたのは、簡単な処理の積み重ねということ。そういった処理、ルールを実現するフローを理解する能力が重要になる」（山岸氏）、「デジタルを始めるならワクワクすることから始めること。ワクワクできる、自分がラクになる、そんなアプローチが大切」（大野氏）など、それぞれの立場からの実感のこもった発言に、会場の参加者はうんうんと頷きながら聞き入っていた。

築理会賞・野田建築会賞に感嘆の声

続く懇親会も築理会・野田建築会合同開催の形で行われた。築理会の石橋会長、野田建築会の菱崎会長から築理会賞、野田建築会賞選定の報告があり、それぞ

記念講演会には高木秀太さんが登壇



高木秀太事務所の実作を基に、建築設計とデジタルを巡るこの20年の変遷を語った



実務者3人がデジタル技術についてクロストーク



高木秀太さん（2009年卒）と山岸隆さん（2014年卒、築理会）、大野芳俊さん（野田建築会）の3人で、AIをはじめとするデジタル技術についてクロストークを展開

築理会賞は石井万葉さん、野田建築会賞は桐山駿人さんが受賞



築理会賞は卒業制作「イセザキ・クロニクル～消えゆくファサードを受け継ぎ創る未来」で受賞した石井万葉さん、野田建築会賞は卒業論文「引抜力を受ける木質構造用ねじの応用力分布に関する研究」で受賞した桐山駿人さんが、懇親会でプレゼンテーション

れの受賞者がプレゼンテーションを行った。

築理会賞は卒業制作「イセザキ・クロニクル～消えゆくファサードを受け継ぎ創る未来」で受賞した石井万葉さん、野田建築会賞は卒業論文「引抜力を受ける木質構造用ねじの応用力分布に関する研究」で受賞した桐山駿人さんが懇親会参加者へのプレゼンテーションを実施。実務に携わるOB・OGからの鋭い質問に答えつつ、活発な質疑応答が行われた。参加者からは卒業制作、研究論文ともにレベルの高さに感嘆する声が複数聞かれた。

参加者からの近況報告、校歌斉唱、毎年恒例の記念撮影と進み、盛会のうちに合同懇親会は閉会した。

鋼管トラス・プレートジョイント工法 エクス・ティー・ピー

ECS-TP

(Top Plate)

特許取得 第5702410号

NEIS番号: T-160127-A
ECS-TP工法(特許特許特許)

東京都建設局 耐震審査番号: 1801006

鉄骨構造物に革命を。

杭と柱の一体化。

株式会社 三誠
SANSEI INC.

Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

SANSEI
Inc. Holdings,

エア―断震住宅

株式会社 三誠 AIR断震システム
http://www.airdانشin.jp/

究極の地震対策住宅 国土交通大臣認定取得
国住指第 2036号

①通常時
地震センサーが常にゆれを監視しています。

②地震発生時
地震センサーが一定以上の地震波を検出すると即時にエアーダンクから空気が送り込まれて家を浮かし、揺れを断ちます。

大地震が来ても大丈夫
震度7の揺れを1/30に軽減。エア―断震住宅なら、毎日安心して暮らせませう。



2025年度 ホームカミングデー開催のお知らせ ～音楽が奏でる理科大の絆～

日 時：2025年10月19日(日) 11:00～16:00
場 所：葛飾キャンパス

エンタメショー・展示会などが開催されます。
事前登録もできますので、理窓会ホームページで詳細をご確認ください。

卒業50—10周年記念招待、記念コンサート、同窓出合いの広場(団体・個人)、お楽しみ抽選会など事前受付が開始されています。

●理窓会ホームページ：

<https://risoukai.com/news/hcd2025-preannounce/>



今年も築理会が参加します。

日 時：2025年10月19日(日) 10:30～14:45
場 所：講義棟3階302教室

築理会・野田建築会・竹中工務店理窓会・
理窓会高砂熱学支部合同展示室

2024年度工学部建築学科の卒業設計「築理会賞」受賞者の
図面やパース等を講義棟3階302教室で展示します。

- ①石井万葉さん「イセザキ・クロニクル —消えゆくファサードを受け継ぎ創る未来—
- ②佐藤慧さん「変奏する都市緑景 —持続的な既存市街地開発の提案—

展示会場内で13:00から石井さんと佐藤さんによるプレゼンテーションも予定しています。

卒業生の企画力や提案力、デザイン力、表現力を楽しんでください。

2026年 築理会・野田建築会 合同新年会を開催します。

日 時：2026年1月15日(木) 18:00～20:00
場 所：ポルタ神楽坂6F 理窓会倶楽部

楽しい新年会となるよう企画を検討します。

詳細はホームページに掲載します。

ぜひ皆さま、ご予定ください。

学生と卒業生交流イベント 「先輩と語る2025」を開催します。

日 時：11月22日(土)
場 所：葛飾キャンパス

「10年後のわたし」をテーマに、卒業後10年目のOBOGが学生たちに職場や業界、仕事のリアルを伝えます。

第5回ノダ・アーキサロンの紹介

こんにちは。野田建築会会長の菱崎嘉昭です。野田建築会が2025年5月26日に開催した、第5回ノダ・アーキサロン(2部構成)の様子をご紹介します。

第1部は、創域理工学部の垣野義典教授(2001年理工学研究科修了)による講演会でした。テーマは「学校建築と建築計画研究のいま」。垣野教授がこれまで研究してきた学校建築の現状や動向などをご紹介いただきました。全国で学校の建て替え時期に入っている今、建築分野から新たな学校を提案できる絶好の機会になっていると説明いただきました。

第2部は演奏会を催しました。ボーカルは、理工学部建築学科を卒業した行川さをり氏で、演奏テーマは「笙箏声(しょうそうこえ)」。和楽器の笙と箏による、古風な音色と幻想的な声色が印象的でした。

野田建築会では、これからもイベントを開催していきます。築理会とともに盛り上げたいと思っています。

第1部は講演会



第2部は演奏会



会費納入のお願い

築理会は皆さまの会費により活動しています。卒業生、在校生への多様な活動のために、会費の納入をお願いします。築理会やりぼんの活動などに対する寄付も受け付けています。

編集長：安達功

編集委員：中東 壮史、近藤 剛啓、飯山 道久、栢木 まどか、大村聡一朗、山岸隆

編集後記：中東 壮史

私が理科大を卒業してから約10年間で、工学部建築学科に研究室を構えていた教授たちが次々と退職していきました。所属していた研究室の教授も退職し、私と理科大建築学科との関わりも築理会くらいになりました。時の流れと共に、複雑な思いを感じています。とは言え、会報誌の編集を通じて理科大の「今」を垣間見ているからこそ浸れる感慨なのでしょう。社会に出る一歩前に経験する大学生生活が、卒業後にどう移ろっていくのか。築理会が毎年2号発行している会報誌が、OB・OGの皆さんが大学の変化を知る一助になってくれることを願います。